

外出活動中に行方不明になり2日間発見できず慰謝料請求

- 家族の心配は大きな精神的苦痛 -

■ なぜ発見できなかったのか？

障害者支援通所施設の外出行事で、有名な神社にあじさいを見に行きました。出発した時は曇りでしたが到着すると小雨が降って来て、傘をさして参拝することになりました。職員3名と利用者5名（うち1名は車椅子）で参拝し、送迎車に戻ろうとすると、Mさんが見当たりません。あわてて、職員2名で境内全域を探しましたが見つからず、施設に連絡を入れ応援を呼び境内を徹底的に搜索しました。午後5時10分に母親に連絡をし、警察への搜索願いを提出しました。翌日も早朝から市内を中心に搜索を開始しました。その際、施設で写真入のチラシを作成して配布し、午後11時半まで法人職員総勢20名10組で搜索しましたが発見できませんでした。翌々日、午前9時に隣の市の市役所の駐車場で職員がMさんを発見し、病院に救急搬送されましたがケガもなく退院となり自宅戻りました。

発見の翌々日に施設長と課長が果物と5万円のお見舞金を持参して利用者宅を訪問し、治療費などの支払いを申し出ましたが、母親は「死ぬほど心配したのだから、慰謝料を請求する」と怒りを露わにしました。その後施設長と課長が何度も訪問し、最終的には賠償金の他に施設独自で見舞金を上乗せして支払うことを提示し、示談となりました。

行方不明発生時の搜索手順はあらかじめ決めておく

■ 職員配置は事故原因ではない

この事故で施設長が、「事故の原因は職員配置が足りなかったことだ」と言いました。5名の利用者（1名は車椅子）に対して職員3名では少ないので、人数を増やすべきだったということです。本当にそうでしょうか？では職員を何名に増やしたら事故は防げたのでしょうか？



介護職員は自分たちの見守りによって、全ての事故を防ごうと考え、事故が起きると職員数が足りなかったという指摘がしばしば起きます。しかし、この事故では、職員配置の問題より「なぜ小雨の中で、人が混んでいる神社に行かなければならなかったのか」という方が問題なのです。外出行事は施設内とは環境が異なり、天候などの外的な条件に著しく左右されます。つまり、本事例の事故原因の第一は、「わざわざ小雨の中人混みに出かけたこと」だったのです。

■ なぜ職員だけで搜索するのか？

次の原因は、職員だけで3時間も探していたことです。人出の多い混雑した神社で、職員2名（1名は他の利用者の対応）で知的障害のある利用者を探し出すのは非常に困難です。たとえ、天候などの外的な条件が悪くなくても、職員が利用者を見失うというミスは起こり得るため、もっと有効な対応方法を決めておかなければなりません。具体的には、神社の管理事務所などの係員に応援を求めたり、放送を使って呼び出しをする決めておけば良いのです。

■ 外出行事中だけ利用者に目印を付ける

私たちは、幼児を連れて遊園地に行って子供を見失ってしまったら、管理事務所に行って迷子の呼び出しをしてもらいます。この時、子供が誰から見ても判別できる特徴がある服を着ていると、発見が早くなります。しかし、施設の外出行事の時に、ワッペンを胸に付ける訳にはいきませんので、本人が抵抗なく付けられ、また尊厳を損なわないような工夫をしてあげれば良いと思います。ある通所施設で行事参加者に、「式典の来賓の胸に付ける胸章リボン」を付けたところ、「何の行事ですか」と周囲から尋ねられたという話がありますが、人を探すとき目印になるものであれば何でも良いのです。

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

マーケット開発部市場開発室

担当 森田・山口

TEL 050-3462-6444

担当課・支社 代理店